

---

# 俺と黒龍

死神魔姫

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺と黒龍

### 【Nコード】

N0602BA

### 【作者名】

死神魔姫

### 【あらすじ】

顔以外中の下の主人公、そんな主人公は冥府の神の加護を受けることになり、人間界、天界、冥界、その三つの世界を救う羽目に！  
？

## プロローグ

現在この世界ではアニメオタクやゲームオタクなど、そんな○○オタクと名のつく人がたくさんいる。  
そしてこの小説の主人公はいわゆる「神話オタク」なのだ・・・

「くそっ！」

小石を蹴りながら怒りの言葉を発しているこの人物こそが小説の主人公、

犬神狼牙である。

「なんでなんだ！俺が先にとっただっていうのに！！くそっ！」

こいつの説明を一言ですると

「顔以外中の下」

ということだ。

どうということだ、と思った人はいるだろうかこうとしか言い表せな

いのである。

顔は上の上なのであるが、運動神経、賢さ、力・・・とまあかすべ  
てが中の下。

趣味は神話を読むこと。そんなできそこないの大学生がこの小説の  
主人公なのである・・・

「あと5分早く家を出てれば買えたのに・・・くそー!!」

どうやら買いたいものがあつたらしいのだが売り切れになつてしま  
つたようだ・・・

「くそつ！つて！いつてえ！なんでこんなとこにサッカーボールが  
あるんだよ！こんなもの!!」

どむっ！

犬神がけつたボールはうまいこと路地に入り・・・ヤンキー達のボ  
スに当たつた・・・

「・・・オラー!!!誰だ！俺にボールなんかを蹴つたやつ！出て  
こい!!」

(ちょ・・・やばい・・・ボールなんかけるんじゃなかった!!)

「おい！お前だろうが！そこのお前！」

どうやらヤンキーの方もイライラしていたようで・・・犬神はお呼

び出しとなった・・・

「おい、お前。俺にボール当てたよなあ？」

「す、すみません・・・」

「謝罪はいらねーんだよ、金だ！金よこせ！賠償金だよ！」

犬神が現在持つているお金・・・生活費・・・盗られれば生活できなくなるといふものだ・・・

「すみません！それだけは勘弁してください！」

「ああん？なめてんのか！ちっ！」

そういうと、ヤンキーたちは武器を持ち始めた・・・

「じゃあ、せめて殴らせろや。俺今すっげえイライラしてんだよ。」

(やばいやばいやばい！殺される殺される殺される！誰でもいいから助けて！)

もう絵的にはひどいものになっていた。犬神は顔をくしゃくしゃにして泣いているのだ・・・

「誰か・・・助けて・・・誰でもいいから・・・ハデス様でもいいから！！！！！！」

（俺を呼んだか？）

そんな言葉が聞こえたかと思うと犬神は意識を失った・・・

## プロローグ（後書き）

更新超不定期になります。もしかしたら月一になるかも・・・

冥界の王(前書き)

ヤンキー言葉ってむずいな・・・  
更新遅くなった・・・

## 冥界の王

「うーん・・・はっ！ここどこだ！」

現在犬神が居る場所は、路地の奥・・・のはずなのだが・・・

「うえっ！？ここどこだ！？えっ！俺たしかヤンキーのいた路地の奥・・・ああ・・・そうか・・・俺死んだのか・・・」

そう、現在犬神が居る場所はよく漫画などで見る何も無い世界・・・奥行きも高さも何もない場所・・・無の空間なのだ・・・

「そうかー、俺死んだのかー、死後の世界ってこんな感じなんだな・・・」

そうやって独り言をつぶやく犬神の前に・・・

「おお！やっとききたのか！」

「そうかー死んだのかー」

「おい！聞いてんのか！」

独り言をつぶやく犬神の前に現れたのは・・・

「ぬおっ！お前誰だ！そうか！神様だな！」

「はあ！？おいおいこの俺様が神様だつて！？笑えるぜ！そのジョーク！やつぱり人間どもは面白いな！！お前が呼んだくせに！」

「えっ！？俺が呼んだ！？誰か呼んだっけ俺・・・？」

「おいおい人間は記憶力もないのかよ！お前呼んだじゃねーか！泣きながら『ハデス様！』とかなんとか、詳しくは忘れたけど・・・」

「

「おまえも忘れてんじゃねーか！つーかっていうことはお前あの冥界の王ハデスウ！？」

「だから！お前が呼んだんだろうが！だから助けに来てやったっていうのに・・・残り少ない魔力使って空間のはざまに連れてってやつたんだぞ！」

「え？俺死んで無いの・・・？」

頭の上に大量の疑問符を付けた犬神・・・間抜けずらだ・・・

「おまえ馬鹿？何回も言わせんな！冥界に連れて行くぞ！あ・・・無理なんだつた・・・あー！めんどくせえ！！」

「えーと・・・今の状況を整理すると・・・ヤンキーに殴られそうになった俺をお前が助けてくれたわけ？」

「そうだ！まあ普通にお前が呼んだだけじゃ来ることはなかったんだが・・・」

「え・・・？それどうゆう意味だ？」

「実はな、助けただろ？お前のこと、あれ俺が人間界にいたからなんだ。いなかったら聞こえねーしな。」

「じゃあ、なんでお前がここにいるんだ？冥界にいるんだろ？」

「んー俺にもよくわかんねーんだ！」

「・・・え？」

「いや、実はな天界では100年に一度集みたいなのがあつて神様と星座たちが集まるんだよ。で、行ったらあの超工口親父のゼウスのがつたるい話聞かなきゃなんねーんだけど、終わったらパーティーがあるんだ。で、今回もそれ目当てで行ったんだけどな、俺居眠りしててさ、爆発音で目が覚めたんだけど黒い稲妻が落ちたかと思うと人間界に落ちた。終わり。」

「なんかよくわかんなかったけど、なんで帰らないの？」

先ほどから質問してばかりの犬神、無理もない・・・

「戻ろうとしても無理なんだよ！扉を開いてもつながんねーし・・・」

「じゃあどうすんだよ、お前。」

「あんな、俺さまがお前をただで返すと思つたか？」

不敵な笑みを漏らす冥界の王・・・

「お前！助けてもらったお礼に・・・俺様と契約しろ！」

冥界の王（後書き）

はい、契約の方向に行きました・・・

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0602ba/>

---

俺と黒龍

2012年1月14日13時50分発行